

☆聖書で祈る☆

マタイ 5:13~16 「地の塩、世の光」

13:「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。14:あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。

15:また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そうすれば、家の中のものすべてを照らすのである。16:そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。」

ガラテヤ 2:20~21 「キリストがわたしの内に生きている」 (本文省略)

▽参考資料▽

現代世界憲章 1 (序文—全人類と教会との深い連帯性)

現代人の喜びと希望、悲しみと苦しみ、特に、貧しい人々とすべて苦しんでいる人々のものは、キリストの弟子たちの喜びと希望、悲しみと苦しみでもある。真に人間的な事がらで、キリストの弟子たちの心に反響を呼び起こさないものは一つもない。それは、かれらの共同体が人間によって構成されているからである。かれらはキリストにおいて集まり、父の国への旅において聖霊に導かれ、すべての人に伝えなければならぬ救いのメッセージを受けている。したがって、この共同体そのものが人類とその歴史とに、実際に深く結びられていることを自覚している。

教会憲章 31 (信徒の定義)

信徒に固有の特質は世俗的特性である。・・・

他方、信徒に固有の召命は、現世的な働きに従事し、それらを神に従って秩序づけながら神の国を追求することである。信徒は世俗の中に生きている。すなわち、世間のそれぞれのあらゆる務めと仕事に携わり、家庭と社会の一般的生活条件の中で生活するのであって、かれらの生活はいわばそれらによって織りなされている。かれらはそこに神から招かれたのであり、自分の務めを果たしながら、福音の精神に導かれて、世の聖化のために、あたかもパン種のように内部から働きかけ、こうして信仰・希望・愛の輝きをもって、特に自分の生活のあかしを通して、キリストを他の人々に現わすよう召されている。

『信徒の召命と使命』第15項

こうして「世」は、信徒にとってキリストの招きにこたえる場となり手段となります。なぜなら、世自体がキリストと結ばれて、父である神に栄光を帰すように定められているからです。したがって公会議は、神が信徒に向けられた、固有で特別な召命の意味を示すことができるのです。信徒は、世の中でもっている地位を放棄するように招かれているわけではありません。洗礼は、世から退かせるものではありません。聖パウロはこう指摘しています。「兄弟たち、おのおの召されたときの身分のまま、神の前にとどまっていなさい」(Iコリント 7:24)。パウロは、まさに世にある信徒の状況を正しく考慮して一つの務めをゆだねています。・・・(中略)・・・それゆえ信徒にとって、世間にとどまって行動することは、単に人間学的、社会学的現実であるばかりでなく、とくに、神学的、教会論的現実でもあります。

『信徒の召命と使命』第17項

・・・第二バチカン公会議は「家庭の仕事もその他のこの世の仕事もけっして靈的生活と無関係なものではない」と明言しています。シノドスに参加した司教たちも次のようにいっています。「信徒の生活の一貫性は、非常に重要です。実際、信徒は、毎日の職業生活、社会生活にあって、聖化されなければならないのです。したがって自分の召命にこたえて、自分の毎日の活動を、神との一致の機会、み旨の達成の機会、人々への奉仕の機会、キリストにおける神との交わりに人々を導く機会とみなさなければなりません」。